

医学研究センター

知財戦略研究推進部門

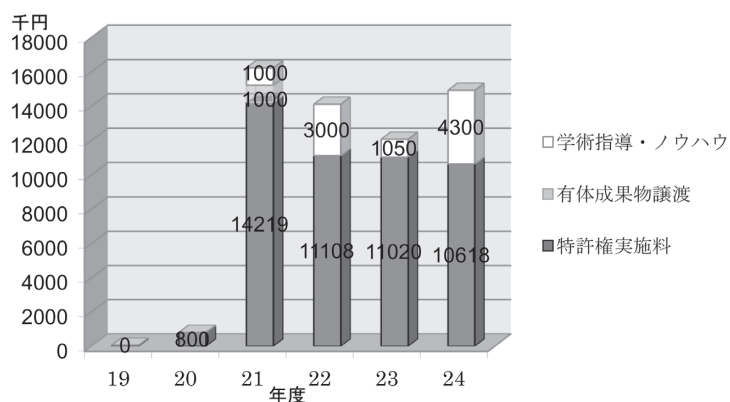
岡崎 康司

(部門長)

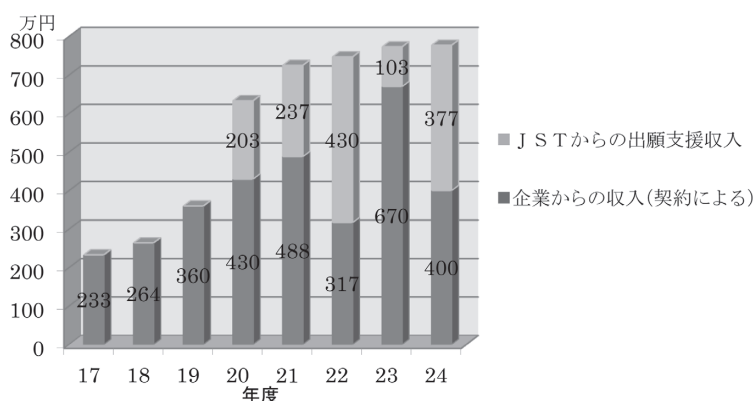
知財戦略研究推進部門は、「知的財産管理運用部門」と「産学連携部門」を統合し平成19年12月に発足しました。当部門は平成18年度から特許庁の支援事業（「大学知的財産アドバイザー派遣事業」）を受けてスタートしました。3年間の支援期間によって、当初想定していた以上に良い方向で着地することができ、平成21年度より自立した組織としてスタートを切りました。

平成22年度から平成24年度まで、埼玉県が主催する「次世代産業カレッジ」事業に参画しました。当事業は、セミナー等を通して企業や大学とのネットワークを形成しながら、経営マインドを持つ中小企業の技術者を育成することを目的としたもので、産学官連携コーディネータおよび補助員を採用し新たな活動を開始することができました。現在（平成25年5月1日）までに16件の特許が成立し、保険適用となった臨床検査向け特許（「特許第4216266号」）技術が現場において活用されるに至り、産学官連携による人類の健康や福祉への貢献が目に見える形となって参りました。そのランニングロイヤリティは、次の発明の創出に向けて研究者及び法人に還元され、まさに知的創造サイクルが回り始めたものと実感しております。

知的財産に係る収入(実施年度ベース)



企業及び独立行政法人科学技術振興機構からの出願支援



※企業からの収入：共同出願契約等において、本学が負担すべき費用等を企業に負担していただいた場合の費用を収入として換算した。

平成24年度の知的財産に係る収入（実施年度ベース）は、学術指導・ノウハウ提供で400万円、特許権実施料収入で1,061万円であり、総額は1,461万円となりました。また、特許の出願費用については、企業や独立行政法人科学技術振興機構（以下、JSTと略す）から出願費用の支援をして頂きながら、出願費用の負担を軽減する努力をしています。

当部門の活動の成果として、文部科学省が平成24年10月26日に公表した平成23年度の大学等における産学連携等実施状況調査の結果において、『特許権実施料収入』で医学部を持つ全国私立29大学の中で第4位、全国全ての大学の中では第20位にランキングされました。

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/_icsFiles/afieldfile/2012/10/26/1327174_01.pdf)

No	大学名	千円
1	日本大学	41,399
2	慶應義塾大学	31,694
3	近畿大学	16,066
4	埼玉医科大学	11,020
5	久留米大学	7,515

知財戦略研究推進部門の主たる役割は、本学の英知と時代のニーズとの橋渡しを行うことによって社会に貢献していくためのサポートを行なうこととあります。以下に、平成24年度における様々な成果や活動状況の一端についてご紹介させていただきます。

■特許査定

研究者との面談や弁理士との協議を積極的に行い、8件の特許が成立した。

①発明の名称「ペルオキシソーム生合成および機能に関連する障害を治療および診断するための医薬組成物」

出願日：平成17年6月9日

登録日：平成24年4月6日

発明者：岡崎康司

②発明の名称「インスリン分泌誘導剤及び膵臓β細胞増加促進剤」

出願日：平成19年7月20日

登録日：平成24年8月7日

発明者：豊島秀男，横尾友隆

③発明の名称「鳥インフルエンザワクチン」

出願日：平成19年7月20日

登録日：平成24年10月9日

発明者：松井政則

④発明の名称「変異型βシヌクレイントランスジェニック非ヒト動物」

出願日：平成18年12月6日

登録日：平成24年12月14日

発明者：井上聡，津久井通

⑤発明の名称「膵臓β細胞増加促進剤及び膵臓β細胞増加促進組成物」

出願日：平成19年7月20日

登録日：平成25年1月11日

発明者：豊島秀男，横尾友隆

⑥発明の名称「Th17細胞クローン並びにその製造及び利用」

出願日：平成19年7月2日

登録日：平成25年1月18日

発明者：松下祥

⑦発明の名称「膵臓β細胞増加促進剤及び膵臓β細胞増加促進組成物」

出願日：平成19年7月20日

登録日：平成25年3月5日

発明者：豊島秀男，横尾友隆

⑧発明の名称「加齢黄班変性症の発症リスクの予測方法」

出願日：平成19年7月26日

登録日：平成25年3月22日

発明者：井上聡，井上公仁子，森圭介，米谷新，神田将和，岡崎康司

■海外出願支援

今後は、知財戦略研究推進部門として、本学で生まれる発明を日本のみならず外国においても積極的に特許として権利化していきたいと考えています。

しかし、外国で権利化するためには、多額の資金が必要になるため、科学技術振興機構(JST)の「海外特許取得のための出願費用支援制度」に積極的に申請し、外国での権利化を図っていく努力を続けています。

昨年に引き続き本年もJST支援制度に10件申請し、4件採択(審議中3件、不採択3件)となり海外出願に関わる費用を支援して頂きました。

平成24年度JSTからの出願支援額は、377万円となっております。

■ライセンス収入

平成24年度は、2件の知的財産に関わる収入がありました。「成立した特許に基づく実施料収入」は、1,061万円、

「学術指導及びノウハウの提供」の対価として、400万円の契約を締結しております。

■研究者訪問

平成24年度には、約100人の医学研究者の先生方と研究内容について面談を行い、知的財産権の啓発活動を行ないました。特許は、研究成果が公知になる前に出願を済ませておく必要がありますが、残念ながら現在でも学会発表後や学会発表直前に特許申請を望まれる先生も見受けられます。知財戦略研究推進部門としては、今後もより多くの先生方に「特許出願の相談は学会発表の抄録作成時にお願ひします」と啓発作業を続けていく必要があると考えています。

■埼玉県事業「次世代産業カレッジ」のセミナー開催

埼玉県が取り組んでいる「次世代産業カレッジ」事業に参加し、中小企業との産学官連携活動を行いました。

開催日：平成24年11月13日(火)10:00～17:30

開催場所：新都心ビジネス交流プラザ会議室

講師：リハビリテーションにおける医療技術と機器開発／国際医療センター運動・呼吸器リハビリテーション科診療学科・前島伸一郎

今医療でもとめられているもの～知的財産権と大学との共同(委託)研究／医学研究センター 知財戦略研究推進部門・飯野顕

医療検査機器のシーズからニーズへ／医学部中央研究施設・坂本安

ライフサイエンスビジネスにおける「知財の利回り」～医療における特許戦略の現状／医学研究センター 知財戦略研究推進部門・安河内正文

■産学連携フェア・彩の国ビジネスアリーナ2013へ参加

本展示会は、様々な分野の企業・団体が参加する、国内最大級の展示商談会であり、産学連携活動の一貫として下記の3演題をパネル展示で紹介した。

開催日：平成25年1月30, 31日

開催場所：さいたまスーパーアリーナ

パネル展示テーマ／発表者：

産業活用可能な新型ヒトiPS細胞／埼玉医科大学 ゲノム医学研究センター 講師 加藤英政
 アクロマティック軸対称波長板／埼玉医科大学 保健医療学部 医用生体工学科 准教授 若山俊隆
 人工間接置換術のための三次元誘導システム／埼玉医科大学 保健医療学部 医用生体工学科 准教授 若山俊隆

■産学交流セミナー

本学と埼玉縣信用金庫は、地域社会における技術開発、技術教育を支援するとともに、地域産業の振興に寄与することなどを目的として産学連携協力に関する協定書を締結しました(平成24年6月18日)。それに基づき、埼玉縣信用金庫との共催による「産学交流セミナー in 埼玉医科大学」を開催しました。埼玉県内の企業(約30社)の参加により、大変盛況でありました。また、同日、国際医療センターの見学会を開催いたしました。

開催日：平成25年3月8日(金)13時30分～17時30分

開催場所：埼玉医科大学・日高キャンパス・保健医療学部C301講義室

講演テーマ／講師：

ヒトiPS細胞の過去における問題点と明日への挑戦／埼玉医科大学 ゲノム医学研究センター 講師 加藤英政

内面形状測定用プローブカメラの新展開～今、内面形状測定が必要とされている～／埼玉医科大学 保健医療学部 医用生体工学科 准教授 若山俊隆

本学の皆様には知財戦略研究推進部門の活動内容をご理解頂き、実際の発明案件等や発明に関する素朴な質問がありましたら、気軽に声をかけて頂きたいと考えています。知財戦略研究推進部門は、日高キャンパスのゲノム医学研究センターの6Fにありますが、ご相談があればこちらから皆様のもとへ伺わせて頂きます。本年も知財戦略研究推進部門を何卒宜しくお願ひ致します。